

青森県経済統計報告

令和 4 年 1 1 月 1 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和 4 年 10 月 1 日現在） 1

県 人 口 1,204,343 人（対前月 1,013 人減少）	
自然動態	1,082 人減少（出生者数 519 人、死亡者数 1,601 人）
社会動態	69 人増加（転入者数 1,448 人、転出者数 1,379 人）

2 本県の経済動向（令和 4 年 8 月・9 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、新型コロナウイルス感染症や物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しの動きがみられる。	
なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和 4 年 1 0 月期）をみると、前期から上昇し、景気の横ばいを示す 5 0 を 2 期連続で上回った。	

（2）主要経済指標の動向

(2-1)	生産動向	・令和 4 年 8 月の 青森県鉱工業生産指数 （平成 27 年＝100）は、季節調整済指数が 91.5 で、前月比 4.8%の低下となり、2 カ月ぶりで前月を下回った。また、原指数は 84.8 で、前年同月比 9.8%の低下となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。	...	2
(2-2)	雇用労働	・令和 4 年 8 月の 定期給与 は 225,022 円で前年同月比 0.7%増となった。 総実労働時間 は 141.4 時間で前年同月比 2.3%減、 所定外労働時間 は 8.2 時間で前年同月比 7.1%減となった。 ・令和 4 年 9 月の 有効求人倍率 （季節調整値）は 1.18 倍となり、18 カ月連続で 1 倍を上回った。	...	3
(2-3)	物 価	令和 4 年 9 月の 青森県消費者物価指数 （令和 2 年＝100）は、総合指数が 104.4 となり、前月比 0.5%の上昇、前年同月比 4.0%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 101.7 となり、前月比 0.4%の上昇、前年同月比 2.7%の上昇となった。	...	5
(2-4)	個人消費	・令和 4 年 9 月の 百貨店・スーパー販売額 は、144 億円で全店舗ベースが前年同月比 4.2%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比 4.1%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。 ・令和 4 年 9 月の軽乗用車を含めた 乗用車新車登録・届出台数 は 3,368 台で、前年同月比 26.3%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。 ・令和 4 年 9 月の主な観光施設の 観光入込客数 は、73 万 2 千人で前年同月比 150.9%増となり、6 カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の 宿泊者数 は、20 万 3 千人で前年同月比 57.7%増となり、6 カ月連続で前年同月を上回った。	...	6
(2-5)	建 設	・令和 4 年 9 月の 新設住宅着工戸数 は 441 戸で、前年同月比 12.5%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。 ・令和 4 年 9 月の 公共工事請負金額 は 170 億 2,800 万円で前年同月比 23.8%減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。	...	8
(2-6)	企業倒産	令和 4 年 9 月の 企業倒産 は、件数は 1 件で前年同月と同数となった。負債総額は 9,800 万円で前年同月比 292.0%増となった。	...	8

（3）景気動向指数 C I（令和 4 年 8 月分） 9

先行指数	122.7（前月を 8.2 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した）
一致指数	75.4（前月を 1.2 ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した）
遅行指数	93.3（前月を 3.8 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（令和 4 年 10 月期） 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I … 52.8（前期比 1.8 ポイント上昇、2 期連続で 50 を上回る）	
3 カ月後の景気の先行き判断 D I … 49.0（現状判断 D I と比べ 3.8 ポイント低下）	

1 青森県の推計人口(令和4年10月1日現在)

【概 況】

現在の本県推計人口は、1, 204, 343人で、対前月1, 013人の減少となった。

○自然動態

出生者数が519人、死亡者数が1, 601人で、1, 082人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1, 448人、転出者数が1, 379人で、69人の増加となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭45. 10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50. 10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55. 10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60. 10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2. 10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7. 10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12. 10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17. 10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22. 10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27. 10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令 2. 10. 1	1,237,984	583,402	654,582	-	-70,281	-	-	-	-	-	-
3. 10. 1	1,221,305	575,531	645,774	-0.061%	-746	-958	564	1,522	212	1,423	1,211
3. 11. 1	1,220,315	575,169	645,146	-0.081%	-990	-958	550	1,508	-32	1,167	1,199
3. 12. 1	1,219,219	574,658	644,561	-0.090%	-1,096	-1,066	515	1,581	-30	1,038	1,068
4. 1. 1	1,217,988	574,116	643,872	-0.101%	-1,231	-1,163	473	1,636	-68	996	1,064
4. 2. 1	1,216,386	573,399	642,987	-0.132%	-1,602	-1,367	530	1,897	-235	898	1,133
4. 3. 1	1,214,864	572,686	642,178	-0.125%	-1,522	-1,148	473	1,621	-374	839	1,213
4. 4. 1	1,209,012	569,766	639,246	-0.482%	-5,852	-1,252	525	1,777	-4,600	3,346	7,946
4. 5. 1	1,208,675	569,850	638,825	-0.028%	-337	-1,047	470	1,517	710	3,229	2,519
4. 6. 1	1,207,975	569,445	638,530	-0.058%	-700	-1,133	532	1,665	433	1,662	1,229
4. 7. 1	1,207,127	569,009	638,118	-0.070%	-848	-946	476	1,422	98	1,375	1,277
4. 8. 1	1,206,193	568,608	637,585	-0.077%	-934	-987	480	1,467	53	1,724	1,671
4. 9. 1	1,205,356	568,367	636,989	-0.069%	-837	-1,100	557	1,657	263	1,883	1,620
4. 10. 1	1,204,343	567,893	636,450	-0.084%	-1,013	-1,082	519	1,601	69	1,448	1,379

9月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月	平24. 9	25. 9	26. 9	27. 9	28. 9	29. 9	30. 9	令元. 9.	2. 9	3. 9	4. 9
自然 動態	出生者数	736	750	831	736	742	721	569	547	564	519
	死亡者数	1,181	1,273	1,434	1,328	1,336	1,286	1,416	1,409	1,522	1,601
	自然増減数	-445	-523	-603	-592	-594	-565	-847	-862	-958	-1,082
社会 動態	県外からの 転入者数	1,382	1,563	1,528	1,521	1,478	1,578	1,210	1,592	1,292	1,448
	県外への 転出者数	1,491	1,498	1,491	1,622	1,412	1,429	1,403	1,331	1,276	1,379
	社会増減数	-109	65	37	-101	66	149	-193	261	16	69
増減数計		-554	-458	-566	-693	-528	-416	-902	-586	-846	-1,013

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は国勢調査人口(確定値)。

※2 令和2年11月1日以降の人口は、令和2年国勢調査人口(確定値 総務省統計局 令和3年11月30日)を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数(出生者数－死亡者数)＋社会増減数(県外からの転入者数－県外への転出者数)

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

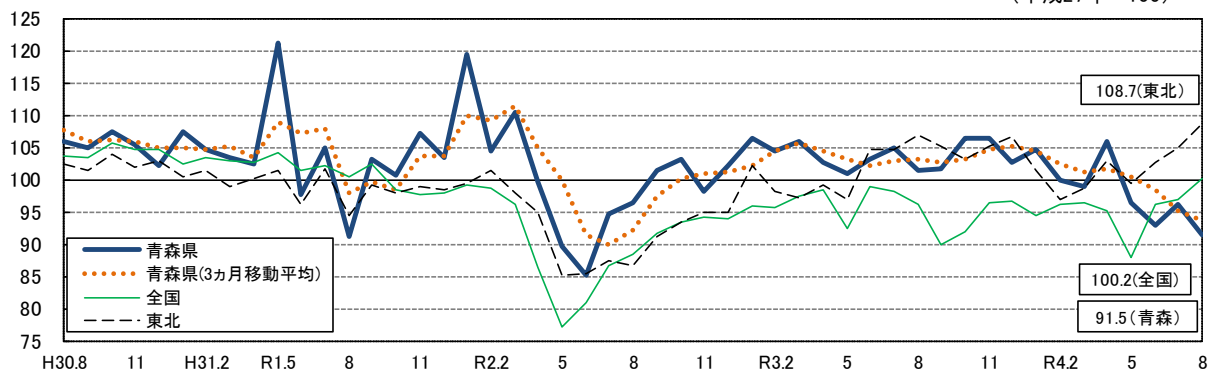
(2-1) 生産動向

令和4年8月の青森県鉱工業生産指数(平成27年=100)は、季節調整済指数が91.5で、前月比4.8%の低下となり、2ヵ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は84.8で、前年同月比9.8%の低下となり、4ヵ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、家具工業、印刷業等が上昇に寄与した一方、電子部品・デバイス工業、食料品工業、輸送機械工業等が低下し、鉱工業全体では4.8%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成27年=100)



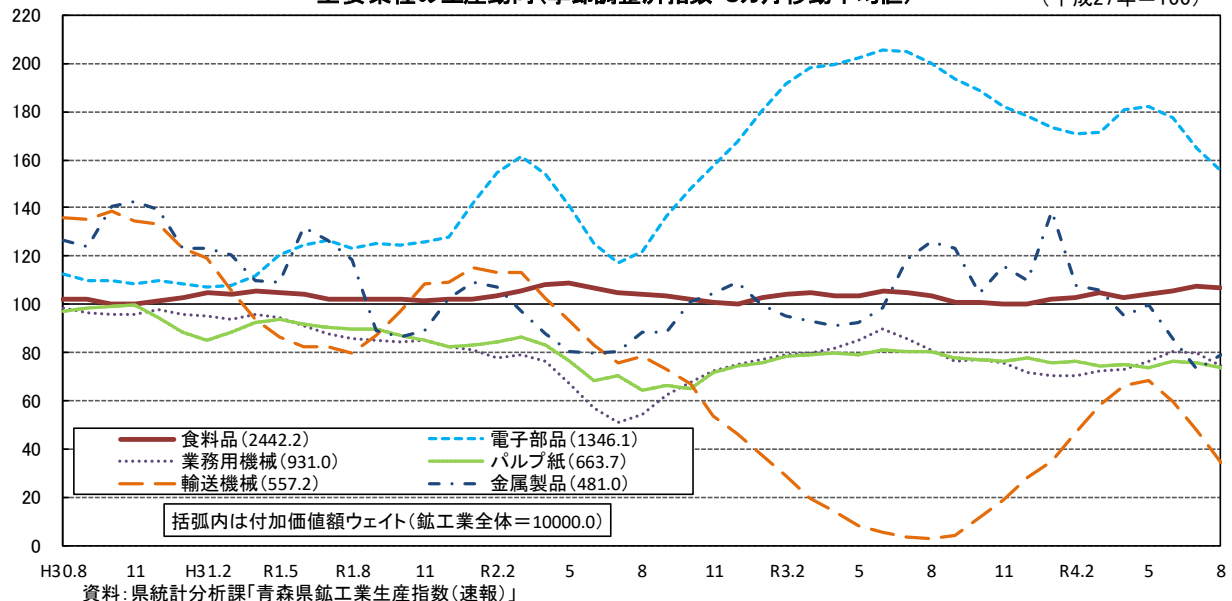
◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -4.8%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
化学工業	258.9	134.0	電子部品・デバイス工業	-9.7	-18.6
家具工業	94.3	4.9	食料品工業	-3.5	-8.1
印刷業	8.9	1.7	輸送機械工業	-28.9	-4.9
その他製品工業	35.7	1.6	業務用機械工業	-6.7	-4.0
はん用機械工業	17.6	0.9	生産用機械工業	-23.2	-2.2

※寄与率とは、総合指数の上昇(低下)に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウェイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3ヵ月移動平均値)

(平成27年=100)



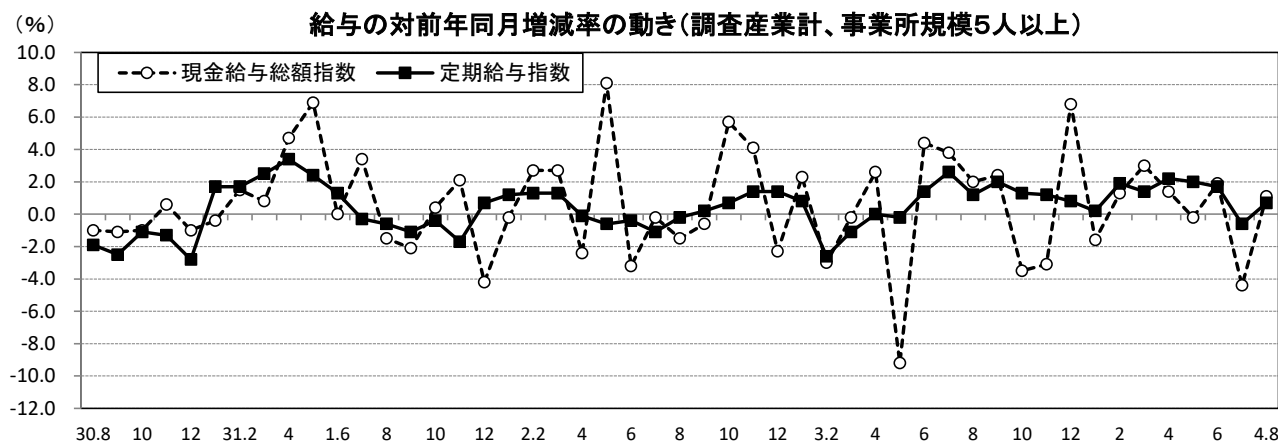
資料: 県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和4年8月の定期給与は225,022円で、定期給与指数（令和2年＝100）では101.2となり、前年同月比0.7%増と2カ月ぶりの増（現金給与総額243,049円、現金給与総額指数92.9、前年同月比1.1%増）となった。

総実労働時間は141.4時間で、総実労働時間指数は96.0となり、前年同月比2.3%減と8カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は8.2時間で、所定外労働時間指数は87.2となり、前年同月比7.1%減と3カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

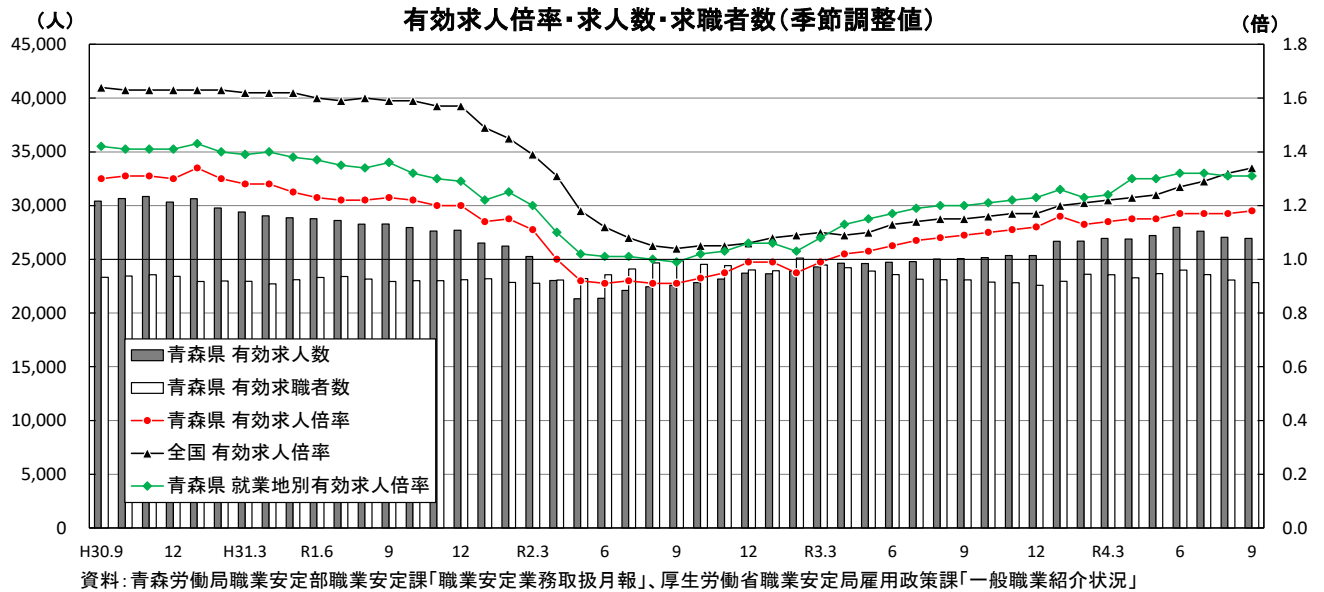
給与及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実 数		指数(R2=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	243,049 円	279,388 円	92.9	87.8	1.1 %	1.7 %
定期給与	225,022 円	266,404 円	101.2	101.6	0.7 %	1.8 %
特別給与	18,027 円	12,984 円	—	—	—	0.7 %
総実労働時間	141.4 時間	132.5 時間	96.0	98.1	-2.3 %	2.2 %
所定内労働時間	133.2 時間	123.0 時間	96.5	97.7	-2.0 %	2.0 %
所定外労働時間	8.2 時間	9.5 時間	87.2	103.3	-7.1 %	4.2 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 令和4年1月分から各指数は基準更新により令和2年平均が100となるよう改訂している。

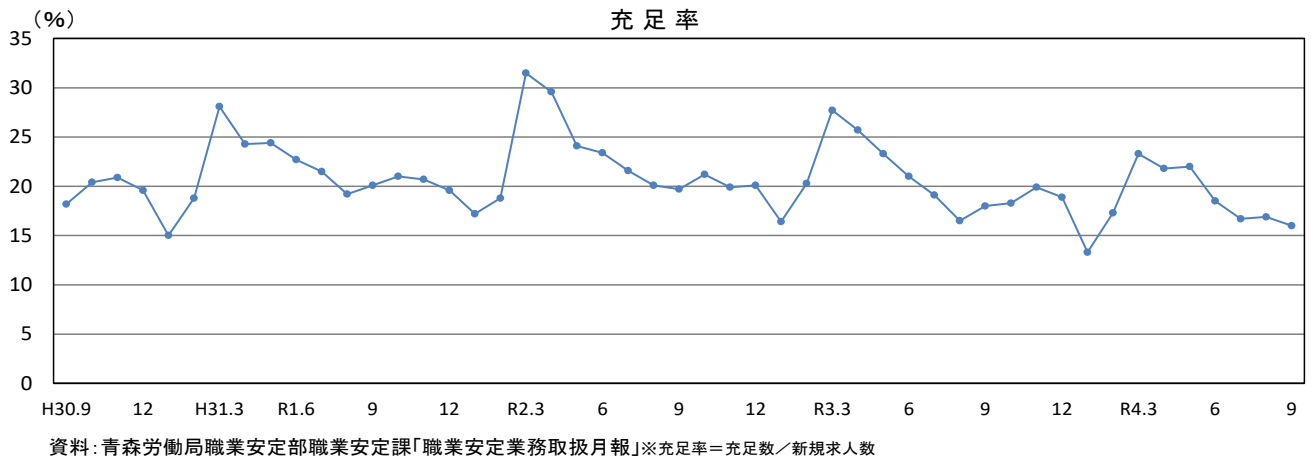
(2-2-2) 有効求人倍率

令和4年9月の有効求人倍率（季節調整値）は1.18倍となり、18カ月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.31倍となった。



(参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和4年9月の充足率は16.0%で、前年同月を2.0ポイント下回った。



(2-3) 物価

令和4年9月の青森市消費者物価指数(令和2年=100)は、総合指数が104.4となり、前月と比べ0.5%の上昇、前年同月と比べ4.0%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は104.1となり、前月と比べ0.5%の上昇、前年同月と比べ3.9%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.7となり、前月と比べ0.4%の上昇、前年同月と比べ2.7%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.5%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、被服及び履物などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ4.0%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、光熱・水道などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

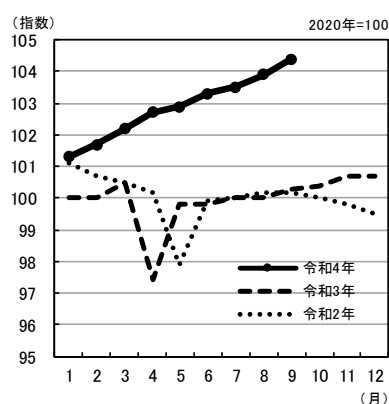


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

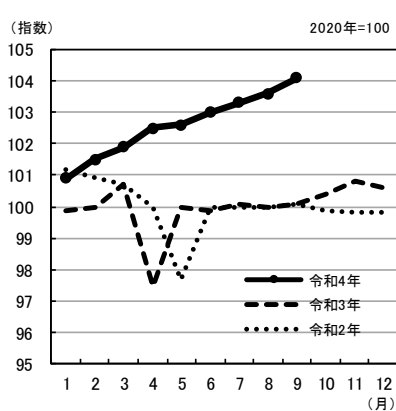
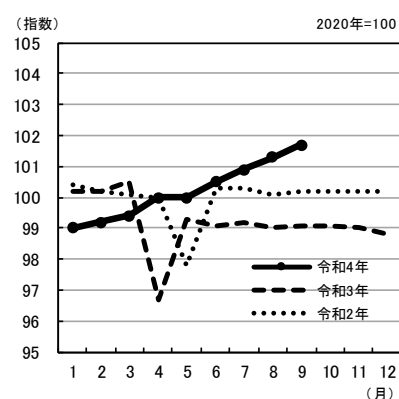


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(2020年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	104.4	104.1	101.7	100.1	106.7	110.6	102.6	121.3	105.9	102.4	98.5	93.3	99.3	104.5	102.9
前月比(%)	0.5	0.5	0.4	0.4	0.7	1.4	0.0	0.1	1.0	5.3	0.6	0.3	0.0	0.0	0.5
寄与度	—	0.43	0.36	0.23	0.21	0.07	0.00	0.01	0.04	0.15	0.02	0.04	0.00	0.00	0.03
前年同月比(%)	4.0	3.9	2.7	1.5	5.8	6.3	2.1	12.5	5.8	1.9	▲0.9	0.5	0.2	2.4	1.9
寄与度	—	3.74	2.26	0.93	1.63	0.31	0.46	1.34	0.23	0.06	▲0.04	0.07	0.00	0.19	0.11

資料:県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

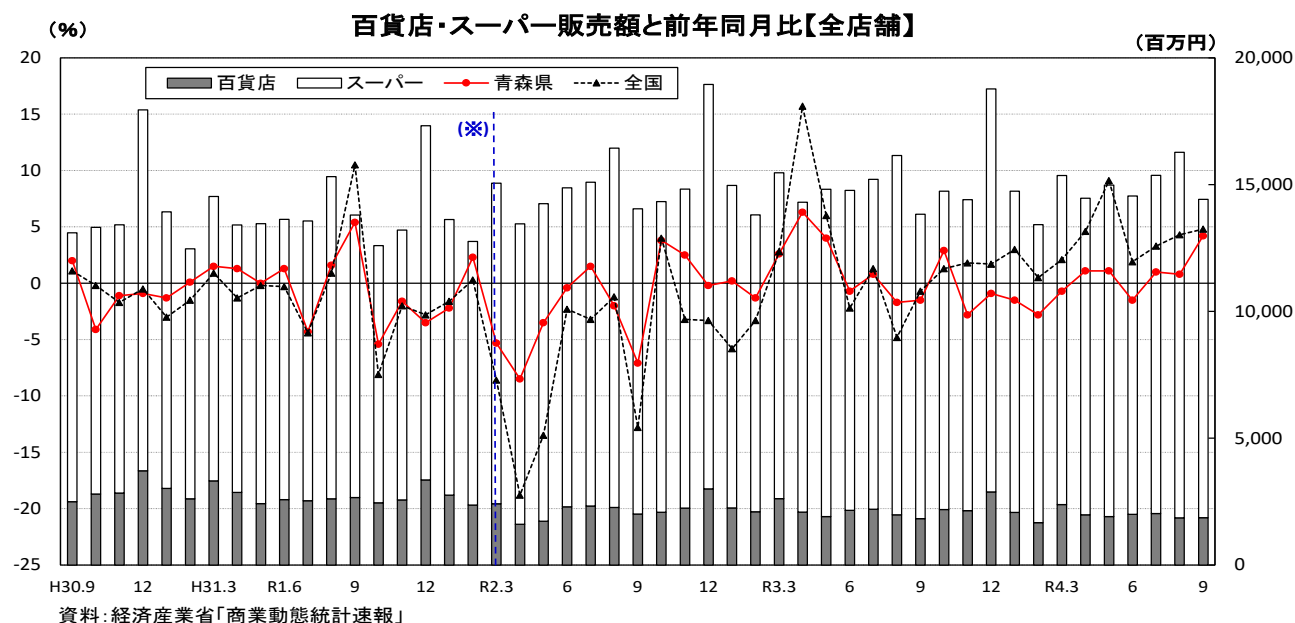
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

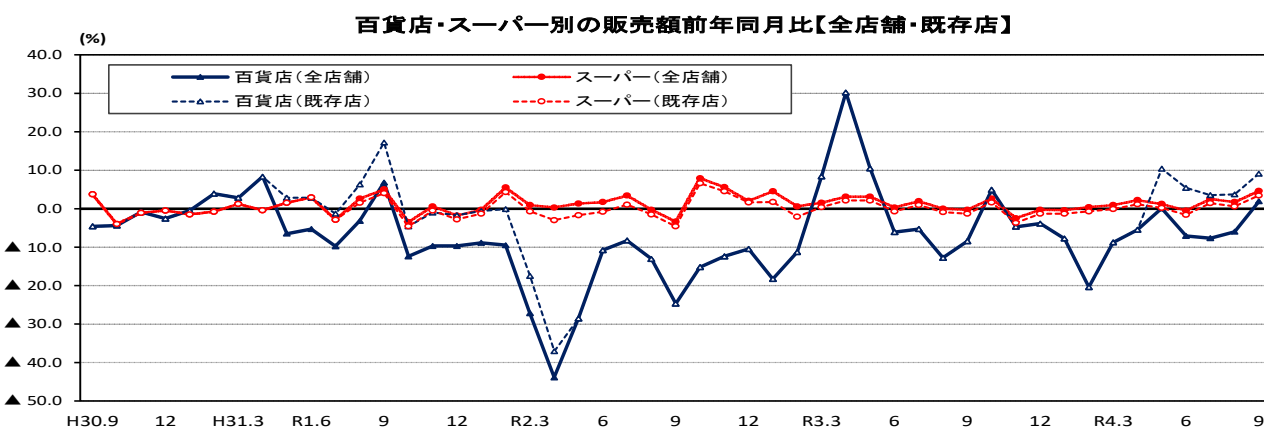
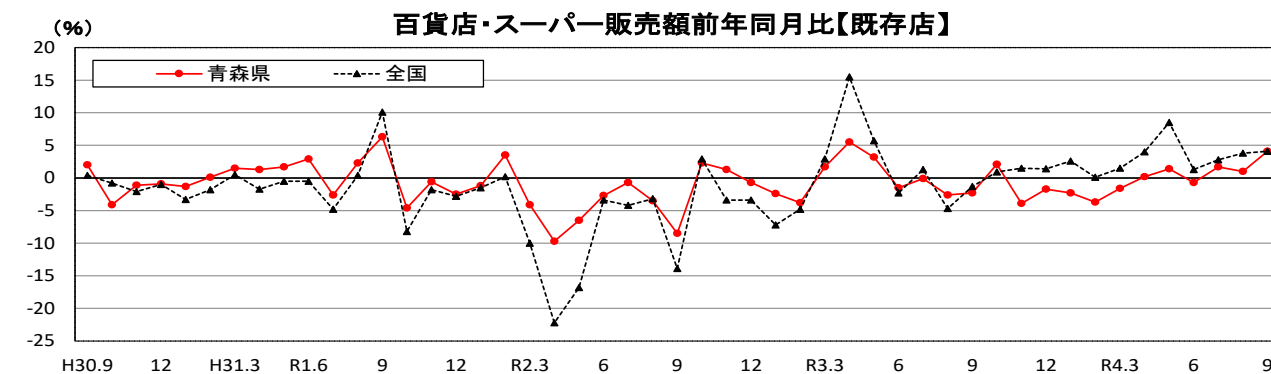
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

令和4年9月の百貨店・スーパー販売額は、144億円で全店舗ベースが前年同月比4.2%増(令和元年同月比4.7%減)となり、3カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比4.1%増となり、3カ月連続で前年同月を上回った。

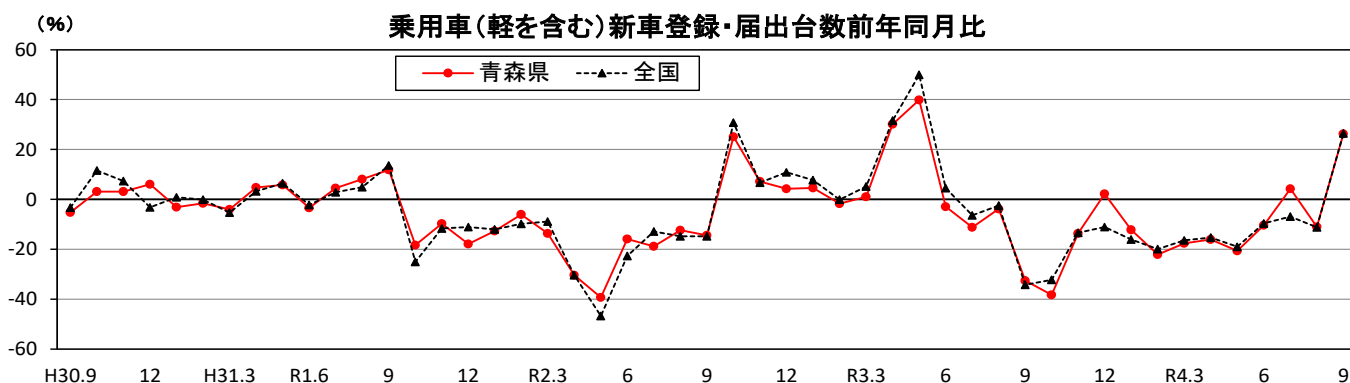


※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。
R2.3月からはH28年経済センサス・活動調査に基づいた対象事業所の見直しがなされ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。



(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

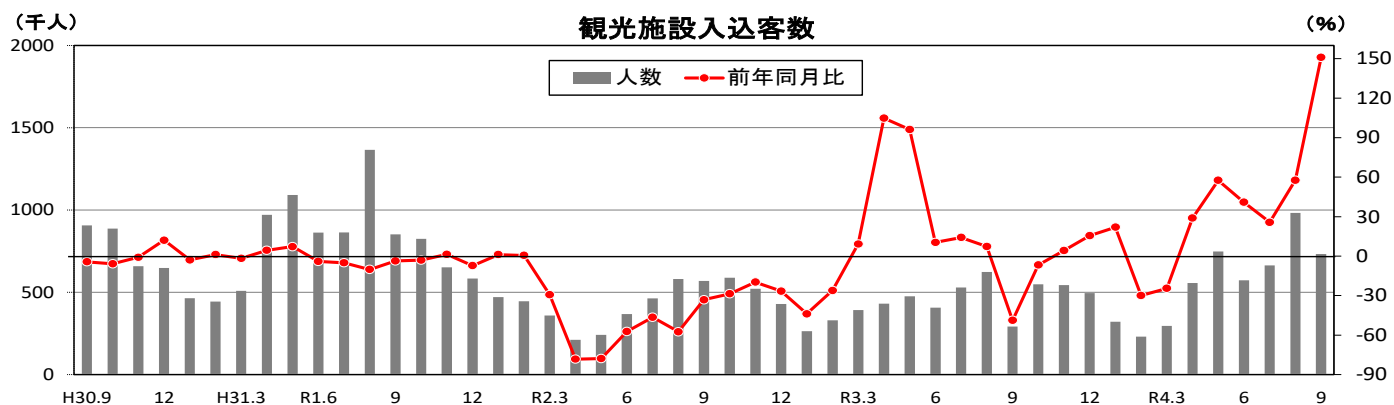
令和4年9月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,368台で、前年同月比26.3%増(令和元年同月比27.1%減)となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。普通車、小型車及び軽乗用車のいずれも増加したことによる。



資料: 日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

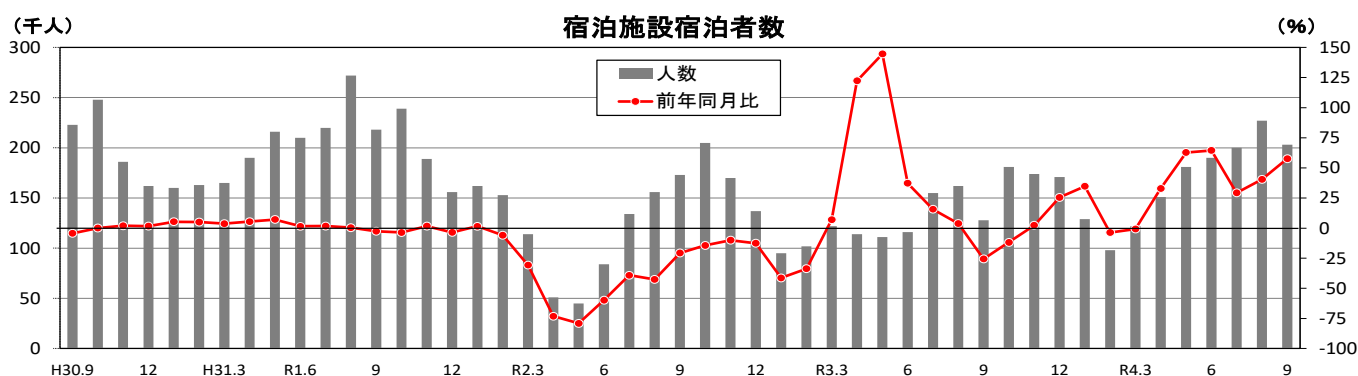
(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

令和4年9月の主な観光施設の観光入込客数は、73万2千人で前年同月比150.9%増(令和元年同月比14.1%減)となった。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、20万3千人で前年同月比57.7%増(令和元年同月比6.9%減)となった。いずれも6カ月連続で前年同月を上回っているものの、令和元年同月を下回っている。



資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設34施設(H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月～H28年12月は34施設、H29年1月～H30年12月は35施設、H31年1月以降34施設対比)



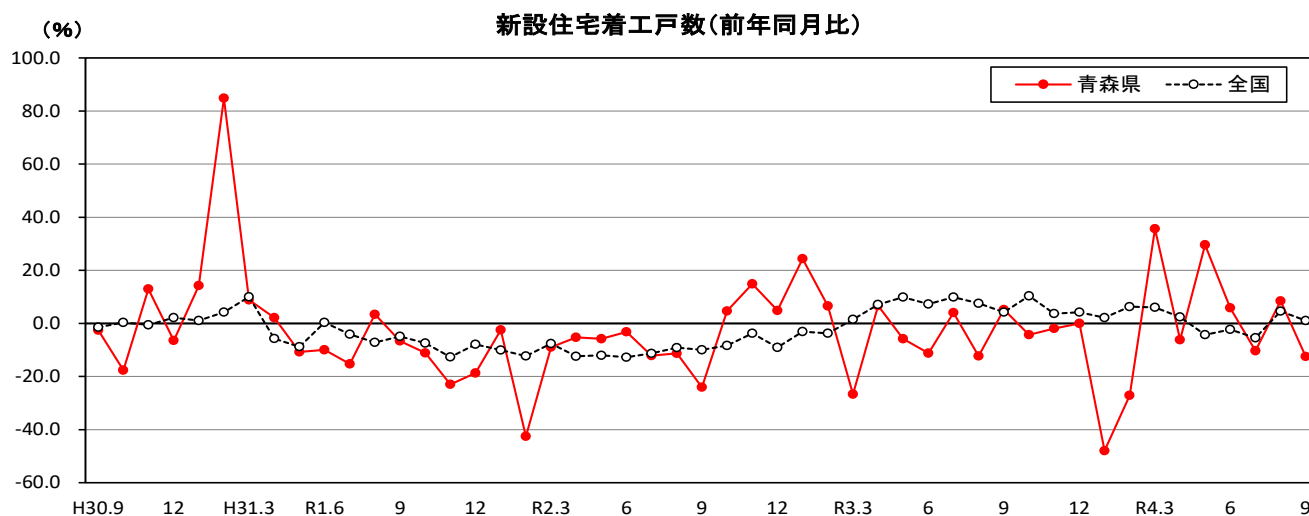
資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※宿泊施設 全県75施設(H30年6月まで79施設、H30年7月は78施設、H30年8月～R1年5月は79施設、R1年6月～7月は80施設、R1年9月～R2年3月は78施設、R2年4月～5月は77施設、R2年6月～10月は76施設、R2年11月からは75施設対比)

(2-5) 建設

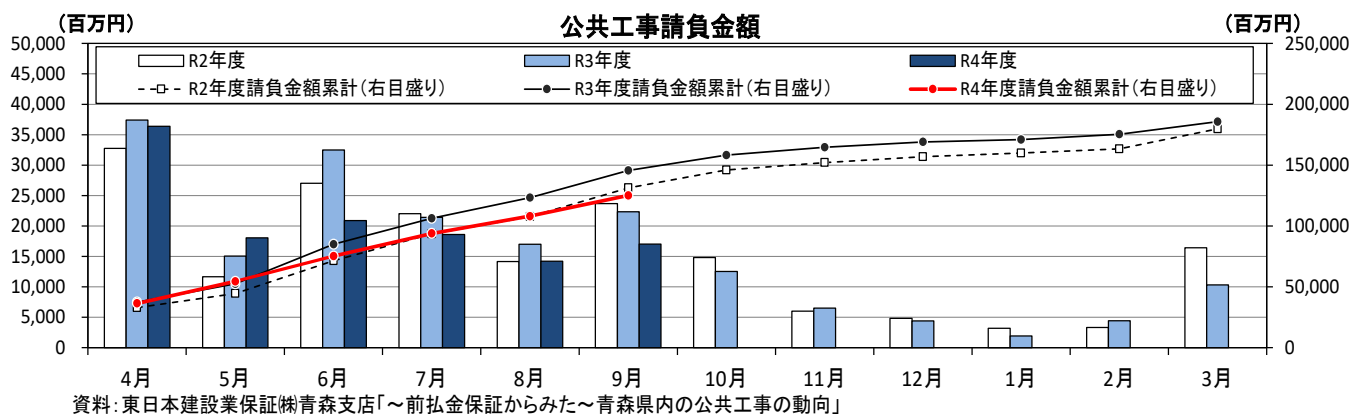
(2-5-1) 住宅建設

令和4年9月の新設住宅着工戸数は441戸で、前年同月比12.5%減となった。主に持家、分譲住宅が減少したことによる。



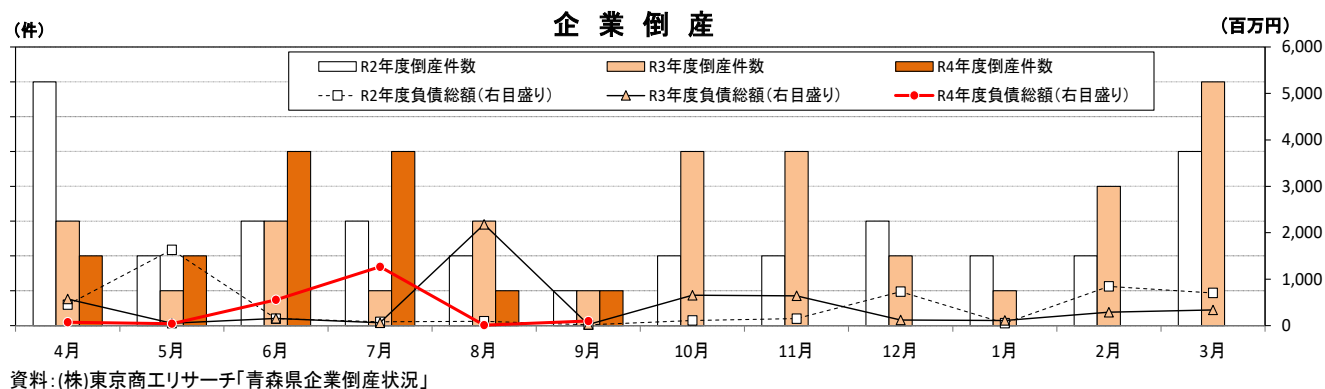
(2-5-2) 公共事業

令和4年9月の公共工事請負金額は170億2,800万円の前年同月比23.8%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。



(2-6) 企業倒産

令和4年9月の企業倒産は、件数は1件で前年同月と同数となった。負債総額は9,800万円の前年同月比292.0%増となった。



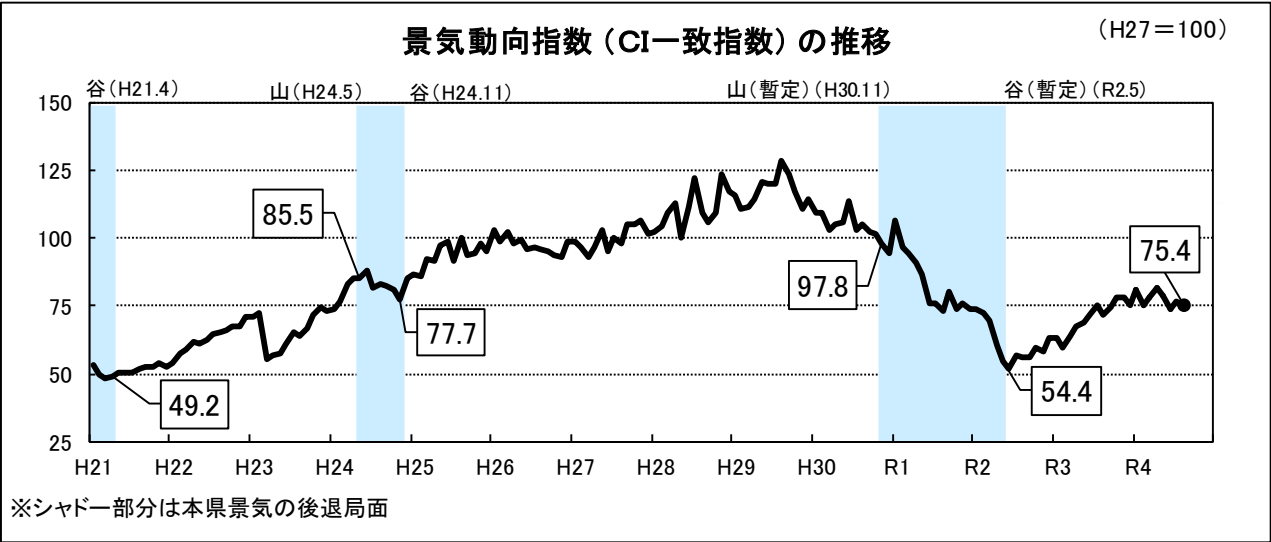
(3) 青森県景気動向指数

令和4年8月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 122.7、一致指数 75.4、遅行指数 93.3 となった。

先行指数は、前月を 8.2ポイント下回り、3カ月ぶりに下降した。

一致指数は、前月を 1.2ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 3.8ポイント上回り、2カ月連続で上昇した。8月の一致指数は、物流関連の指標以外がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
建築着工床面積	1.56	4カ月連続	乗用車新車登録届出台数	-4.09	3カ月ぶり
新設住宅着工床面積	0.72	2カ月連続	新規求人倍率（全数）	-3.07	3カ月ぶり
企業倒産件数（逆サイクル）	0.05	6カ月ぶり	生産財生産指数	-1.60	2カ月ぶり
			日経商品指数（42種）	-0.61	5カ月連続
			中小企業景況 D I	-0.85	2カ月連続
一致系列					
輸入通関実績（八戸港）	1.15	2カ月連続	鉱工業生産指数	-1.10	2カ月ぶり
			投資財生産指数	-0.66	2カ月ぶり
			所定外労働時間指数（全産業）	-0.32	3カ月連続
			百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.27	2カ月ぶり
			有効求人倍率（全数）	-0.01	2カ月連続
遅行系列					
りんご消費地市場価格	3.05	3カ月ぶり	家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-1.27	2カ月ぶり
常用雇用指数（全産業）	0.92	2カ月連続	公共工事請負金額	-0.07	2カ月ぶり
青森市消費者物価指数（総合）	0.74	2カ月ぶり			
有効求職者数（全数）（逆サイクル）	0.32	4カ月ぶり			
県内金融機関貸出残高	0.28	3カ月連続			
（参考）青森県景気動向指数（D I）					
先行指数	62.5%	（3カ月連続で50%を上回った）			
一致指数	50.0%	（4カ月ぶりに50%を下回ったあと50%となった）			
遅行指数	42.9%	（8カ月連続で50%を下回った）			

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和4年10月期）

現状判断D I は、3カ月前と比較して新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いてきたことや、祭りやイベント等が開催されたことにより人出が増加している、一部業種で受注が増加したといった声があり、前期比1.8ポイント上昇の52.8となった。

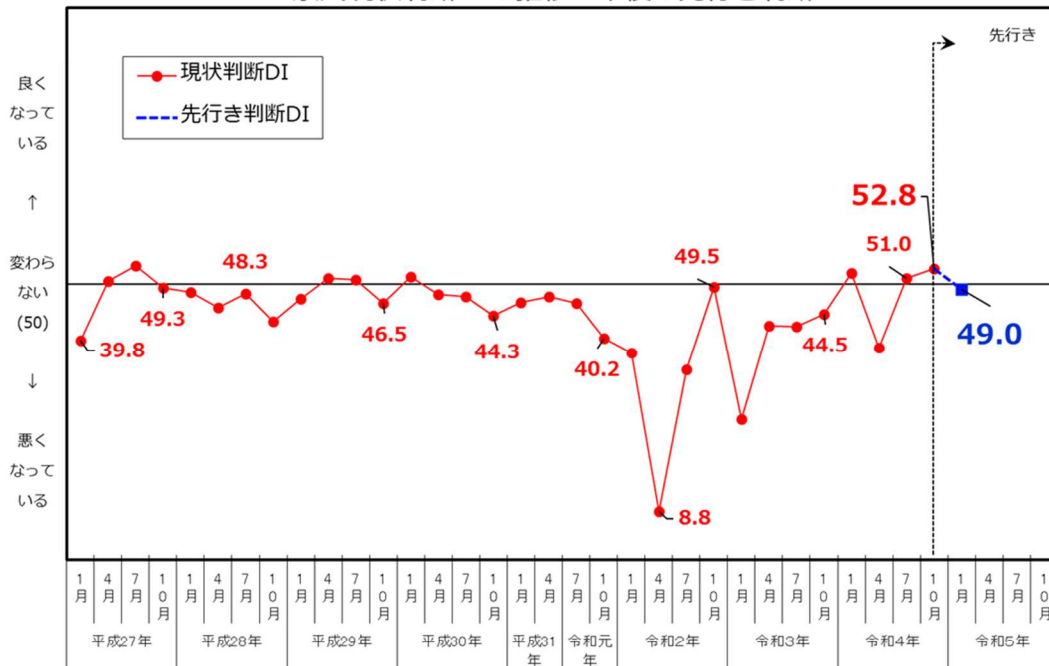
先行き判断D I は、依然として続く円安や原油高、原材料、光熱費等の価格高騰の影響への懸念、各種商品の値上げにより家計が厳しくなることへの不安の声や、節約志向による消費意欲の低下を案じる声があり、現状判断D I と比較して3.8ポイント低下の49.0となった。

3カ月前と比べた景気の現状判断D I は、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。

3カ月後の景気の先行き判断D I は、景気の横ばいを示す50を下回った。

（調査期間 令和4年10月1日～10月21日 回答率 100%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気の現状判断

動

前期調査と比べると、「良くなっている」が2.0ポイント上昇、「やや良くなっている」が1.0ポイント上昇、「変わらない」が2.0ポイント低下、「やや悪くなっている」が同水準、「悪くなっている」が1.0ポイント低下となった。全体では52.8となり、前期から1.8ポイント上昇し、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。

向

判断理由では、3カ月前と比べて新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いてきたことや、夏祭りやイベント等の開催により人出が増加している、一部業種で受注が増加したといった声があった。一方で、家計の面では円安の影響や原油高、原材料、光熱費等の価格高騰により負担が増加し、消費支出が減少している、企業の面では価格転嫁ができていない、また、依然として物価上昇に対する賃金の増加がないといった声もあった。

前期調査と比べて、津軽、県南で上昇し、東青、下北で景気の横ばいを示す50を上回った。

● 3カ月後の景気の先行き判断

動

今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が0.1ポイント上昇、「やや良くなる」が5.7ポイント低下、「変わらない」が0.7ポイント低下、「やや悪くなる」が3.3ポイント上昇、「悪くなる」が3.1ポイント上昇となった。全体では49.0となり、今期調査の現状判断DIと比べて3.8ポイント低下し、景気の横ばいを示す50を下回った。

向

判断理由では、全国旅行支援の開始による人出の増加で観光・飲食・交通面の活性化を期待する声がある一方で、依然として続く円安や原油高、原材料、光熱費等の価格高騰の影響への懸念や、各種商品の値上げにより家計が厳しくなることへの不安の声があった。また、節約志向による消費意欲の低下を案じる声もあった。

今期調査の現状判断D I と比べて、東青、県南、下北で低下し、県南、下北で景気の横ばいを示す50を下回った。

(3) 判断理由

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	家庭用、業務用共に商品の出荷が多くなってきている。飲食店、観光地等人的動きが多く見られる様になってきている。(卸売業=東青)
○	人の動きが多くなり仕事の量が増えてきた。(旅行代理店=東青)
○	社会がコロナに慣れて外出する人が増えているように感じる。人出の混み具合がコロナ前に戻っているかのようだ。(美容院=津軽)
○	コロナが落ち着いてきたことで外にでる意欲が上がり外出に関連した物の支出が増えた。(百貨店・スーパー=下北)
○	宿泊客は前年、前々年よりは確実に伸びてきている。宴会場利用については、未だ飲食を伴うものは少ないものの、街の雰囲気が変わりつつあると感じる。(都市型ホテル=下北)
○	物価高の中で、商店街が行政の販促支援などで頑張っている。県民割の期間延長もプラス要因。(新聞社求人広告=津軽)
□	コロナ禍の行動制限の緩和などで景気はやや上向き傾向ではあるが、物価高などによる高額商品の停滞感は続いている。(乗用車販売=津軽)
□	原油高や原材料、食料品をはじめ公共料金等の値上げもあり、消費意欲が低下していると思う。(ガソリンスタンド=津軽)
□	「悪い」が変わっていない。コロナが鎮静化傾向でも、コストアップ、コストプッシュが異常で経営を圧迫している。(百貨店・スーパー=県南)
□	ガソリン・灯油の値上や食材の値上報道が多く、消費全体が低下していると思われます。また、夏場の天候不順も影響あり。(家電量販店=県南)
△	仕入れ価格は上昇したが、製品の販売価格の転嫁はまだほぼできていない。(卸売業=津軽)
△	エネルギー不足・物価高が起り、日本以外の国が金融引き締めに動いていることで、3ヶ月前に比べ投資が抑えられ始めていると感じる。取引先からも明るい話が減った。(電気機械製造=県南)
△	昨今の物価高の影響だと察しますが、買い物を控えたり低価格の商品を購入したりという光景が目につく。(人材派遣=津軽)
×	物価高による個人消費の減退が最も強く感じとれます。日常の買い物だけに留まらず、青森もこれから寒くなって燃料費も必要な時期を迎えるので、この傾向は益々顕著になってくると思います。(タクシー=東青)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	コロナ感染が間違いなく収束に向かっている現状、徐々に景気も上向きになっていく事は間違いない。(衣料専門店=県南)
○	全国旅行支援が開始して観光事業が活発になると宿泊、飲食、交通の需要が増え、同時に外国人観光客も増えて地方経済が活性化して波及効果で上向くと思います。(娯楽業=東青)
○	コロナ罹患者の減少。インバウンド再開。国内観光の回復が見込まれる。(百貨店・スーパー=東青)
○	仕事が発注されるのは今が一番多いのではないだろうか。規制が緩和され旅行者が増えて来るようになるのではないか。(タクシー=県南)
○	入国者数の上限撤廃によるインバウンド需要の回復と話題になっている全国旅行支援に期待。(新聞社求人広告=津軽)
□	電気代、燃料代、食材ほか原材料費高騰は10月より本格化。売り上げが不透明な状況に加え収益懸念材料が多い。(観光型ホテル・旅館=東青)
□	10月より食品中心に本格的な値上げが開始となり、輸入品、特に小麦やガソリン、家畜飼料などが大きく値上げの影響を受けており、今後の政府による施策にもよるところはありますが、今年度いっぱい現状から景気が回復する見込みは薄いように感じられます。(家電量販店=東青)
□	現時点で仕事の量は増えていない。今後のコロナの状況とお客様の資金繰りの状況から考えると良くなるとは思えない。さらに、物価上昇が影響している。(広告・デザイン=県南)
□	各種製品の値上げ、燃料価格高止まりの影響は今後も続くと思うので。(新聞社求人広告=東青)
△	10月を境に、食品、燃料代、光熱費等、更なる値上げもあり、冬場に向けて暖房光熱費等の需要も増加することから、消費支出に慎重になるものと思われるため。(ガソリンスタンド=県南)
△	一番は大きな物価上昇、なにもかもが値上げしている。今まで経験したことがない物価上昇にお手上げの状態です。どんどん利益を食いつぶしている。円安も当然続きそうだし、ウクライナの紛争も長引くだろうし不安でいっぱいであります。(一般飲食店=県南)
△	値上げラッシュと賃金との格差が広がり先行き不安が拡大しそうである。(百貨店・スーパー=下北)
△	今のところエネルギー不足や物価高が抑えられる様子がない。冬の需要期に向けエネルギー不足・不安は大きなリスク要因である。大口受注はめっきり減りました。(電気機械製造=県南)
×	食品の値上げ、電気料、冬は燃料費も加わり、さらに家計を圧迫。必要以上の消費を抑える傾向がますます強まると考えます。(百貨店・スーパー=東青)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」